

式辞

飯野山に抱かれ、四季折々の草花に囲まれる、ここ飯山高校にも穏やかな春の日差しが降り注ぐ、今日の佳き日、PTA会長、紫和正則様を始め、多くの保護者の皆様のご臨席のもと、令和五年度香川県立飯山高等学校入学式を挙行できますことは、私共のこの上ない喜びであり、誠に嬉しく存じます。本校を代表し、深く感謝申し上げます。

先ほど、本校への入学を許可いたしました一七二名の新入生の皆さん、入学おめでとう。皆さんの入学を心から祝福し、歓迎いたします。

本校は、大正三年四月、綾歌郡立綾歌農業学校として設立され、昭和二十三年には学制改革により、香川県立飯山高等学校として認可されました。その後、時代の変遷とともに学科の改編等を重ね、今年百九年目を迎える歴史と伝統のある学校です。

現在、社会は見通しのきかない混沌とした様相を呈しています。そして、これからの世界を切り開いて行く若者には、「しっかりと自分の頭で考える力」「チームで働いて行く上で、自分に関わる人やものを愛する、感謝する心」「課題を見出し、それを解決して行くために新たなものを創り出す力、それを楽しむ心」が求められると考えます。これらは、正に、本校の校訓「真実にものを考える、ものを愛する、ものをつくる喜びに力と汗を惜しまない」が示している内容であり、本校は、この校訓を体現できる生徒を育てて参ります。生徒の皆さん、共に歩んで行きましょう。

さて、人生には「節目」といものがあります。皆さんは今、高等学校入学という大きな「節目」を迎えました。皆さんが経験した中学校卒業という「節目」では、共に過ごした人たちとの別れを乗り越え、慣れ親しんだ多くのもの、習慣、風景などを大切な「思い出」として自分の中に刻み込んだことと思います。古い扉を閉め、いくつもある新しい扉のうち飯山高校の扉を選んだ皆さんは、今日、新しい自分を生きていくために、その扉を開けました。そして、その扉には「挑戦」という言葉が記されています。本校は、自分の夢を実現するために努力を怠らず挑戦する生徒と、生徒の「大いなる明日」を見据えながら、生徒の挑戦を全力で支援する教職員が集う学校です。飯山高校の生徒として、自信と誇りを持ち、新しい学友と共に、夢の実現に向けて、一歩ずつ前に進んで行ってください。

専攻科に入学した皆さん、皆さんは高校卒業という「節目」を経て、五年一貫教育の四年生として、新たな気持ちで目標を高く掲げ、力強く歩みを進める「節目」を迎えました。未知の病の出現、そして、日々進歩し続ける医療現場において、命と向き合い、人のために生きるということは容易なことではありませんが、本校で自分を磨き、学友と手を携え、倫理観、使命観を身に付け、充実した学校生活を送ってもらいたいと思います。

アメリカの心理学者であるウィリアム・ジェームズは、「できるかどうか分からないような試みを、成功させるただひとつのものは、まずそれができると信じていることである。」という言葉を遺しています。何が正解であるのか、誰にもわからないような混沌とした世界で、皆さんには、目の前の現実から目を背けることなく、真正面から立ち向かい、自分の夢に



向かって挑戦し続ける人であって欲しいと思っています。そのために、自分を信じること、そして、自分を信じられるように、諦めずに挑戦し続けてください。その上で、「三年間、或いは五年間本当によく頑張った」と、将来の自分から感謝されるような学校生活を送ってください。皆さんにとって、今日からの一日一日がどれだけ価値のあることか、しっかりと今の自分の心に言い聞かせてください。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。これまでお子様を育ててこられました皆様のご尽力に衷心より敬意を表するとともに、私共教職員に課せられた責任の重さに身の引き締まる思いでございます。皆様がお子様を寄せる思いを真摯に受け止め、私共教職員は、お子様の大きな成長を目指して、教育活動に取り組んで参ります。どうか、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

待ちわびた春は、高校入学の、そして専攻科入学の希望の春。新入生一七二名の大きな成長を祈りつつ、式辞といたします。

令和五年四月七日

香川県立飯山高等学校 校長 大平 徹

